

オアシス21(通所リハビリテーション)

症例概要 通所リハのご利用者の現役時代と通所利用時のギャップに着目し、行事の司会など提案から、少しずつ自信を取り戻したこと。

更にはオアシスPRビデオの主人公になってもらうことで、やりがいを感じていただいた症例。

PRビデオは 150作品のエントリーの中から14作品に入選した。

I・M様 男性 80代 要介護1 (外部ケアマネ)

内 容

M様はもともと石狩市議会議員として活躍されていましたが、ペースメーカー植え込みと肝臓がんの治療のため一線を退かれました。現役のころは人前に立つことが多かったとの情報でしたが、通所リハを利用された時は、とても消極的でありました。新規相談受付表の【夢・今後やってみたいこと】の質問欄には、「腕や指の力をつけたい」とのことのみ。サービス開始前の情報では、もっと積極的に色々な活動に取り組まれていたとのことから、何とか通所で楽しんでもらいたい、自信を持ってもらいたい。と会議を重ね、通所行事の時に司会進行をお願いしてみました。はじめは照れながらの司会ではありましたが、繰り返すうちに少しずつ自信を取り戻し、表情も豊かになってきました。

そのとき、デイケア学会で3分間の施設PRビデオを募集していることが分かり、オアシスのPRとM様のやりがいを作りたいと、ご本人に主役としての出演交渉しました。M様は「是非やっていみたい。」と即答。そこからオアシスのPRビデオのシナリオづくりを本人交えて取り掛かり、制作開始。今回のPRビデオでは、オアシス21通所の1日、サークル活動や食事の内容などの特徴をM様に紹介してもらうことにしました。作成中のビデオは随時確認しながら行ったことで、ご本人にとっても満足のいく仕上がりになりました。

今回、このPRビデオをデイケア学会に提出したところ、150作品の中の14作品に入選。10/19に行われる、全国デイケア学会(千葉)で発表出来ることになりました。

※M様ご本人も一緒に参加することも考えましたが、体調(心臓)の不安があり、それは実現できませんでした。

これらは、ご本人の現役時代に着目し、通所利用時のギャップに気づき、本人の夢ややりがいを引き出したことが大きな成果だと感じています。

現在はM様も積極的にカラオケを歌ったり活動に参加されるようになられています。

上記のことからキラキラ介護賞に推薦いたします。